

平成 28 年度 佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員会 議事概要

1 日時

平成 29 年 3 月 21 日 (火) 15 : 00 ~ 17 : 00

2 場所

ほほえみ館 4 階 大会議室

3 出席者

【委員】

鐘ヶ江博文、副島洋一、大島一紀、久野絹子、永石智彦、宮崎一哉、谷口仁史、井手正博、池田隆彦、小林紀、宮崎悟、佐々木英利、田代勝良、上野景三、牟田口朝子、上野桂子（敬省略）

【事務局】

<市> 田中保健福祉部長、成富福祉総務課長、山田福祉総務課副課長、西村福祉総務課主査、福本主査、村里主査

<市社協> 貞富事務局長、吉武福祉課長、森木福祉課参事、渡邊福祉課主幹

【傍聴者】 なし

4 会議の公開または非公開

公開

5 傍聴者数

なし

6 議題

○挨拶（佐賀市・佐賀市社会福祉協議会）

○委嘱状交付

○委員自己紹介

○事務局紹介（佐賀市・佐賀市社会福祉協議会）

○策定推進委員会について

- ・地域福祉計画、地域福祉活動計画の概要と位置づけ
- ・委員会の役割、機能
- ・委員会の開催スケジュール

○委員会の会長、副会長の選出

7 質疑応答

8 議事

(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について

①各施策に関連する取り組みについて

○事務局

・これから議題に入るので、田代会長に議事の進行をお願いする。

○会長

・議事(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗について事務局から説明をいただきたい。

○事務局

- ・議事に先立ち会議については、佐賀市審議会等の会議に関する規程に基づき会議を公開する。
- ・会議録については、佐賀市ホームページ等で公表するため、発言の際には個人情報等について、十分留意してほしい。
- ・議事概要については、軽微な字句等の間違い等の修正は事務局に一任していただくということをお願いしたい。

○会長

- ・会議の公開について、事務局の提案とおりでよろしいか。
<意義なし>
- ・それでは会議の公開については事務局提案とおりとする。

○事務局

- ・【資料④】概要の説明。各施策の進捗について、平成28年度の実績がまだ確定していないため、実績が揃う次回の策定推進委員会で報告する。

②〔重点事業〕地域で見守る体制づくり事業について

○事務局

- ・【資料⑤】概要の説明。
- ・【資料⑧】事例の説明。

○会長

- ・担い手の確保が難しい。福祉協力員設置しても会議が難しいなど問題等があるがどうだろうか。

○委員

- ・趣旨はわかる。だがそれを実行していくのが問題。単位自治会は663あるが、自治会長の成り手もない。その中で無理に1年お願いしているのが実態。そのような状況下で福祉協力員を進めていくのは難しい。自治会長が1年、福祉協力員2年というのも難しい。委員の皆さんのいい知恵があったら教えてもらいたい。

○会長

- ・担い手の確保について、どのような取り組みをしているのか。

○事務局

- ・関係の皆さんに集ってもらい、まずは趣旨を説明している。自治会、民協、校区社協の合意形成をとって進めている。その中で全地区ではなく単位自治会などできるところから進めている。

○委員

- ・本当に高齢者が市に対して要求しているのか。行政が一方的にお世話をしているような感じがする。
- ・自治会長など辞められない。(後継者がいない)

○委員

- ・日新地区の福祉協力員の取り組みを説明。
- ・年間15回ふれあいを開催。班ごとに連絡委員を設け、1人で15名程度見ている。ふれあ

いが終わったのちに意見交換会を実施している。連絡会で情報を流して知識をもった段階で福祉協力員という制度があるので受けてもらえないかとお願いしている。日新校区は2地区。目的等を伝えれば皆さんだんだん意識をもってもらって受けてもらっている。ただ、自治会と福祉協力員のコーディネーター役を民生委員などがならないとうまく機能しない。コーディネーターには地域の実態がわかる人が必要。

○委員

- ・データの説明があり、将来が絶望的にかがえる。支え手にも相当負担がかかる。担い手不足が顕著であり、一人が複数の役職を兼ねている。まずは負担を軽減していくことが重要。
- ・事業ベースでの負担軽減が必要。包括化推進員は課題解決などに今後重要な位置づけであるがわずか2名しかいない。本来課題を解決する問題は多いがわずか2名で解決するのは難しいので他のシナジー効果も必要。各窓口などをより連携していくことができないかとも考えている。
- ・負担軽減のためのICTを徹底的に活用することも必要である。時計にも心拍数がついているのがあるが、心拍数、運動など自動集計ができるものもある。このようなものを活用すればすぐに駆けつけることもできる。

○事務局

- ・実態把握は毎年高齢者実態調査により行っている。買い物、交通手段がないなどあるが地域によって課題は異なる。そこを連絡会議で話をして解決できればと思う。
- ・コーディネーターはCSWが地域に入っていきながらできればと思っている。
- ・ICTの活用、マンションなどで有効活用できると思う。現段階では難しいがモデル地区を検証し方向性を見出して、今後支援も含めて検討させていただければとも思っている。

(2)「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業について

①地域力強化推進事業

○事務局

- ・【資料⑥】概要の説明。

②多機関の協働による包括的支援体制構築事業

○事務局

- ・【資料⑨】概要の説明。

○委員

- ・子どもへのまなざし運動、これも見守りになる。部署ごとに同じテーマで地域に問題提起をしている。受ける側は1つ。それに対して受ける側は人数が限られているなかで複数受けている。ここが改善できないのかなと思う。是非、地域の活動に参加していただいて地域の意向を理解してほしい。市の職員は地域の声を聞いて進めてほしい。

○事務局

- ・縦割りを回避するために、問題を効率良く解決できるようにしていかなければならないと考えている。地域のほうにも出向き、情報をつかみ、一緒に話を聞きながら解決できるように考えている。皆さんいろいろな部署から集まっていっしょなので、次回からより深く議論できればと思っている。

○委員

- ・こども110番の家。ガソリンスタンドや飲食店などがやっている。介護や配達なども関わっている。自宅に入っているのでここも巻き込んだほうがいいと思う。

○谷口委員

- ・他の地域の先進事例などと比較して進めたほうがいいと思う。

○委員

- ・避難行動の名簿は実際に昨年から配布しているのか。

○事務局

- ・実際に北川副地区などは名簿を活用しているところもあるが、まだ活用にいたっていないところもある。この名簿をきっかけとして情報共有を進めてほしい。

○副会長

- ・この計画の進捗状況等の点検を行うことがこの委員会の目的。計画の中には多機関協働はなかったもので、計画の範囲外のことともとらえられる。この計画のどの部分に該当するのか、位置づけがないと委員としてはよくわからない。次回、計画のどこに位置づけされているかしっかり整理して委員会に提案してほしい。

(3) その他

①地域協議会の分科会設置について

○事務局

- ・【資料⑦】概要の説明。

○委員

- ・特になし

以上